

別記第5号様式(第8条関係)

平成29年度政務活動費収支報告書

平成30年4月17日

北広島市議会議長 佐藤敏男様

会派名 市民クラブ

代表者名 國枝秀信



北広島市議会政務活動費の交付に関する条例第7条の規定に基づき、下記のとおり平成29年度の政務活動費に係る収入及び支出について報告します。

記

1 収入 政務活動費 624,000 円

2 支出

使 途 基 準 項 目	金 額(円)	内 容
研 究 研 修 費	900	議会技術研究フォーラム
調 査 旅 費	310,153	行政視察(福島県相馬市、岩手県遠野市、宮城県仙台市)
資 料 作 成 費	180,670	インクカートリッジ、インクリボン
資 料 購 入 費	4,000	日本教育新聞
広 報 費	8,855	市政だよりの印刷
広 聴 費		
要 請 及 び 陳 情 活 動 費		
合 計	504,608	

3 残 額 119,392 円

注1 内容欄は、主たる内訳を記載すること。

2 支出の使途基準項目別、支払先別の調書を添付すること。

3 政務活動費を充てた経費に係る領収書(領収書を徴することが困難な場合は、経理責任者の支払証明書)の写しを添付すること。

使途基準項目別支払調書(研究研修費)

年 月 日			支出額	内 容	備 考
30	3	1	900	「北海道周産期医療の現状と課題、今後の在り方について」(北海道札幌市) 交通費(北広島～札幌)・往復	
合 計			900		

使途基準項目別支払調書(調査旅費)

年 月 日			支出額	内 容	備 考
29	7	31	240,100	行政視察(7月31日～8月2日 福島県相馬市、岩手県遠野市、宮城県仙台市・4名) 交通費、宿泊費(1泊)、レンタカー(パック料金)	
29	7	31	7,605	同上 視察先お土産代(3個)	
29	7	31	2,360	同上 JR等交通費(北広島～新千歳)・4名	
29	7	31	1,070	同上 高速道路通行料(仙台空港IC～新地IC)	
29	7	31	10,000	同上 原発20km圏ツアー料・4名	
29	7	31	1,410	同上 高速道路通行料(常盤富岡IC～相馬IC)	
29	8	1	1,470	同上 高速道路通行料(新地IC～長町IC)	
29	8	1	1,300	同上 ホテル駐車場代	
29	8	1	5,374	同上 レンタカー燃料代	
29	8	1	3,160	同上 高速道路通行料(仙台宮城IC～水沢IC)	
29	8	1	28,796	同上 宿泊費(1泊)・4名	
29	8	2	2,500	同上 高速道路通行料(一ノ関IC～仙台宮城IC)	
29	8	2	2,648	同上 レンタカー燃料代	
29	8	2	2,360	同上 JR等交通費(新千歳空港～北広島)・4名	
合 計			310,153		

使途基準項目別支払調書(資料作成費)

年	月	日	支出額	内容及び支払先等	備考
29	6	21	1,940	プリンターインク	
29	6	22	10,374	ハードディスク、USB代	
29	6	28	3,392	FAX用インク	
29	7	10	17,500	プリンタートナー代	
29	9	8	785	プリンターインク	
29	9	15	8,100	コピー用紙	
29	10	17	2,484	インクフィルム	
29	10	17	27,000	事務用品代(プリンタートナーほか)	
29	11	28	2,680	プリンターインク	
29	12	28	3,410	プリンターインク	
29	12	28	7,957	プリンターインク	
29	1	22	5,685	プリンターインク	
30	1	27	2,484	ICレコーダー	
30	1	29	3,740	プリンターインク	
30	2	15	5,980	USB	
30	3	23	20,818	プリンターインク代	
30	3	24	27,260	SDカード、カメラバッテリー	
30	3	26	29,081	事務用品代(ファイル・バインダー他)	
合計			180,670		

市民クラブ 行政視察研修報告書

期間:平成29年7月31日から平成29年8月2日

<調査地選定の理由>

- 1 福島県相馬市他 視察研修 東日本大震災における東京電力福島第一発電所の被災事故において、原子力防災の観点から原発事故以降の被災状況を語り継ぐ行動を行っている福島県相馬市のNPO法人「野馬土」が主催する「福島第一原発20km圏内ツアー」に参加し、説明員の地域の現状等について説明を受けるため。
- 2 岩手県遠野市 視察研修 岩手県遠野市の防災対応について、東日本大震災時に「道の駅」を自衛隊や消防救急隊の支援拠点として機能を発揮した。これを契機に岩手県広域防災拠点配置計画において行為区防災拠点に位置づけされ、防災対応ベーキャンプ及び資機材等の備蓄など、高度な機能を分担している。そこで、遠野市の防災計画における「道の駅」機能と備蓄内容などを現地視察し状況を聴取するため。
- 3 宮城県獣医師会 研 修 東日本大震災や熊本地震などで、災害時に飼い主がペットと一緒に避難所に向かう「同行避難」が問題になった。この同行避難について全国各地で取り組みが広がっている。また、飼い主とはぐれたペットが被災地を放浪したり避難所で動物が苦手な避難者とのトラブルも起きている。震災から学んだペット同行避難や避難所での受け入れ体勢の課題、被災動物救援対応など獣医師会の立場でどのような対応が求められるのかなど研修する。
- 4 被災地域 視 察 陸前高田市及び気仙沼市内被災地視察

<行程表>

年月日	視察場所	目的・距離(レンタカー)	宿泊場所
	別紙:視察研修行程表のとおり		

<視察者> 佐藤議員 國枝議員 滝議員 小田島議員 坂本議員

<対応者>	福島県相馬市他	NPO法人 野馬土	森山直樹 ・現地説明員
	岩手県遠野市	市役所	市議会事務局次長 佐藤邦昭
	岩手県遠野市	市役所	産業振興部商工観光課商工労働係長 菅原 康
	岩手県遠野市	社団法人遠野ふるさと公社	遠野風の丘支配人 佐々木 教彦
	宮城県仙台市	宮城県獣医師会	常務理事 野地 和高

市民クラブ視察研修(東北3県) 行程表

月日	行程	備考
7/31 (月)	<p>自宅 → 6:34 北広島駅 エアポート 徒歩 590円 → 6:55 新千歳空港駅 徒歩 → 7:05 新千歳空港 ANA 4800便 Air → 7:20 仙台空港 送迎車 60分 → 9:00 仙台空港 ツアー 所要3時間 視察研修 → 9:30 レンタカー 所要時間 分 → 10:00 原発被災地ツアー 所要3時間 視察研修 → 11:00 昼食 37分 車 43km → 12:00 所要3時間 視察研修 → 13:00 原発被災地ツアー 所要3時間 視察研修 → 17:00 所要3時間 視察研修 → 18:00 仙台市青葉区 ホテルモンテエルマナー 宿泊ホテル</p>	<p><レンタカー> ニッポンレンタカー WAKUAS 3日間</p> <p><視察研修> 福島第一原発20キロ圏内ツアー(所要時間4時間) 福島県相馬市石上宇南白嶽320 研修料(資料代含む) NPO法人 野馬土(のまど) 森山氏 TEL 0244-26-8437 担当がイド 渡部喜照 0244-36-3013 <宿泊> 〒980-0013 仙台市青葉区花京院1丁目2-15 ホテル モンテ エルマナー仙台 TEL 022-721-7501</p>
8/1 (火)	<p>ホテル発 → 8:00 143分 高速道 173km → 9:55 JIR仙台駅 佐藤議長下車 9分 車 99km → 9:50 14:55 15:20 陸前高田市内 奇跡の一本松 被災地視察 → 10:30 12:00 12:00 昼食 遠野市内 60分 車 49km → 10:30 12:00 12:00 研修・視察 → 15:50 16:20 16:20 気仙沼市内 被災地視察 → 17:30 17:30 一関市内 ホテル 夕食 → 18:30 夕食</p>	<p><視察研修> ①研修:岩手県遠野市(道の駅防災拠点整備事業) 視察:道の駅遠野風の丘 ※道の駅で市と合流 ②震災被災地周辺視察(被災地復興の現状と課題) 陸前高田市~気仙沼市</p> <p><宿泊> 〒021-0884 岩手県一関市大手町2-1 蔵ホテル一関 TEL 0191-31-1111</p>
8/2 (水)	<p>ホテル発 → 8:30 9:50 9:55 JIR仙台駅 佐藤議長下車 9分 車 99km → 10:30 11:30 11:30 研修 → 13:15 14:15 14:15 視察 → 17:30 17:30 レンタカー 返却 → 10:09 10:34 10:34 JIR仙台駅 佐藤議長乗車 25分 車 650円 → 10:00 10:34 10:34 仙台空港発 ANA1225便 Air → 17:40 18:40 18:40 仙台空港発 ANA4809便 Air → 19:55 19:55 新千歳空港 快送 → 12:40 12:40 新千歳空港 快送 → 北広島</p>	<p><研修> ①宮城県獣医師会 (事務局長: 仙台市宮城野区安養寺3丁目7-2 TEL 022-297-1735 ・東日本大震災から学んだペット同行避難について ・獣医師会から見たペット同行避難訓練と受け入れ態勢の課題</p> <p><視察> ①仙台市県営宮城野運動公園 宮城野ホールホールグループ構想予定地</p>

平成29年度北広島市議会市民クラブ視察研修報告

- テーマ1 被災地を見つめる
東京電力福島第一原子力発電所事故～原発の20km圏内ツアー
- と き 平成29年7月31日（月） 13:00～17:00（4時間）
ところ 福島県川俣町、飯館村、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町
案内人 NPO法人 野馬土 （福島県相馬市石上字南白髪320）
現地案内人
- 内 容 視察団チャーターのレンタカーに案内人を同乗してもらい相馬市から富岡町までの往復区間を車内及び下車にて、現況の説明を受けた。
- 1 東日本大震災から6年が過ぎ、風化を指摘する声がある中、被災地には震災を語り継ぐ人たちがいる。2013年に福島の現状を多くの人に知ってもらおうとNPO法人野馬土（のまど）と地元ガイドが「福島第一原発20km圏内ツアー」を始めた。2017年6月時点で個人・団体単位で約13,000人が参加している。地元ガイドは7人いるが全員が福島県の太平洋岸の通称「浜通り」に住んでいる人々である。
 - 2 ツアー出発前に1台の放射線量計（市役所からの貸与品）を手渡された。これから事故原発から直線で1.5kmの付近まで近づくため、放射線量が高い地域になるとのことでした。
 - 3 国道を南下し、飯館村の市街地に入る。放射線量が高い「帰還困難区域」を除き、平成29年3月に避難指示が解除された。街のあちこちには放射性部室が含まれた汚染表土が黒いトンパックに入れられあちこちに山積みされている。説明では、除染廃棄物は住宅敷地内及び道路側線周辺のもので、畑や山林の除染はこの時点でもほとんど手を付けられていない状況であることが話された。森の除染は困難な状態であることは、「雨が降ると山林の表流水が平地に流れ込むことになり、避難指示は解除されても安心して住み続けることのできる状態ではないという。避難解除されてもほとんどの家はカーテンが引かれたり雨戸が閉じたままで住民の帰還は進んでおらず異様な風景とともに静まり返っていた。
 - 4 いよいよ原発20km圏内に入った。国が示す平常時の被曝線量の限度は0.23マイクロシーベルトだ。南相馬市小高地域に入ったが、ここは平成28年7月に避難指示が解除されたが帰還した住民は約1,900人で事故以前の住民の15%程度にとどまっているとのことであった。
 - 5 続いて浪江町の請戸漁港に向かった。沿岸部はほとんどの建物が津波で流され更地になっていた。ここでも放射線量を量ってみた。

- 6 双葉町と大熊町の帰還困難区域を通過した。帰還困難区域は国道から海側にあり、交差点などの道路全てにバリケードが施設され、警備員が24時間監視しているとのこと。主要道には、検問が布かれ災害対策関係車両のみが通行を許されている。

印象に残ったのが桜並木で有名な富岡町の夜の森地区でした。道を一本挟んで一方は避難指示解除で人々が住めるのに反対側は帰還困難区域で人が住めない。目の前の無人の街並みを見るとやるせない気持ちになってきます。

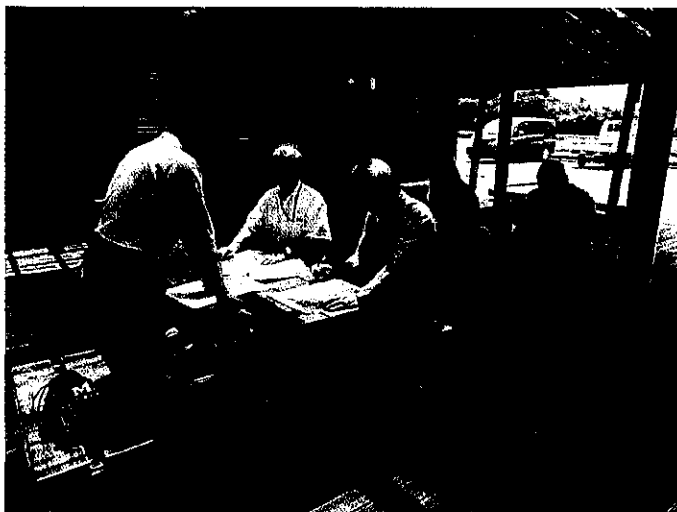
- 7 帰還困難区域に関しては、一切の物品の移動ができない。道路を挟んですぐそばにある住宅から例えば家財道具を持ってきたい。すぐ脇の自家用車を使いたいといっても、全て移動禁止。復興のための建設重機を使いたいといってもこれもダメ。本当にやるせない気持ちで一杯になった。
- 8 畜産農家の牧場を見学した。ここは黒毛和牛の生産農家ですが、原発事故の影響で肉牛の出荷も移送もできない。牧場主は、丹誠込めた牛を原発事故の被害の一部として生存展示しているとのこと。
- 9 放射線測定器を持つてのツアーであった。出発地点の線量が一番低く 0.073 マイクロシーベルトであったが、ツアー中の最大値は原発近くの大熊町大野で 4.229 マイクロシーベルト。実に 61 倍の線量を観測した。国の基準の 18 倍であった。5 感では感じえない恐ろしさがあった。

<考察>

福島に行って実際を目視して感じることは、福島はまだまだ着地点が見えない。山林等の広い地域を完全に除染することは非常に難しいと感じた。既に除染シトシトパック詰にされた大量の汚染土等の安全な処分はどのようにするのか。原発事故には莫大な費用がかかるというリスク管理の課題が大きい。

また、確かにまだまだ放射線量が高い地域もあります。しかし福島県全体が危険区域ではないという現実もあります。福島には実際に行かないと分からないことも多くあり、この目で見た景色や環境、何が正しいか分かりませんが現況を情報として広く市民に伝えなければと強く感じた。

7 / 3 1 原発 2 0 km 圏 ツアー



NPO法人 野馬土にて、ツアー全体の説明を受ける。

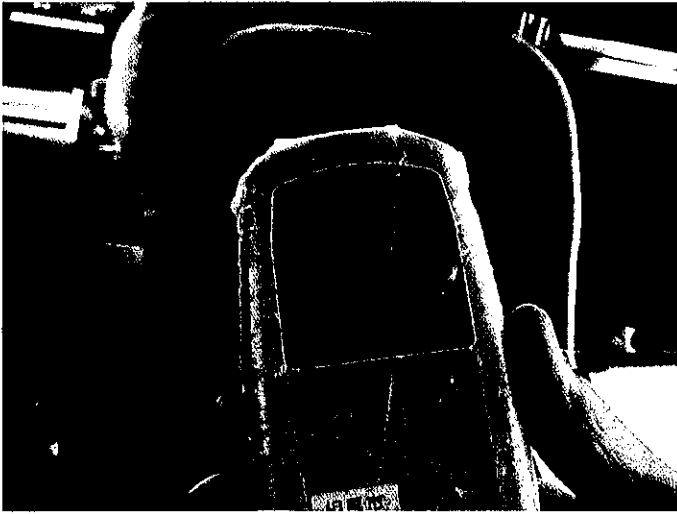


スタート時に相馬市から借りたサーベイメーターの数値を確認。

現在、毎時0.073マイクロシーベルトの放射線量を確認。



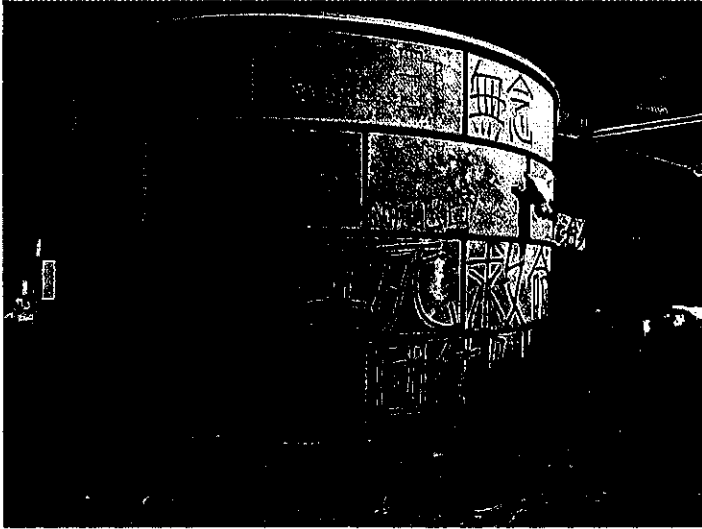
ツアー開始直後から視線に入る大量の汚染表土の貯留施設。道路脇に山積みされている。



この地点の放射線量0.130マイクロシーベルト



入口から牧場までの間に山積みの廃棄物



被害農家の悲惨な訴え



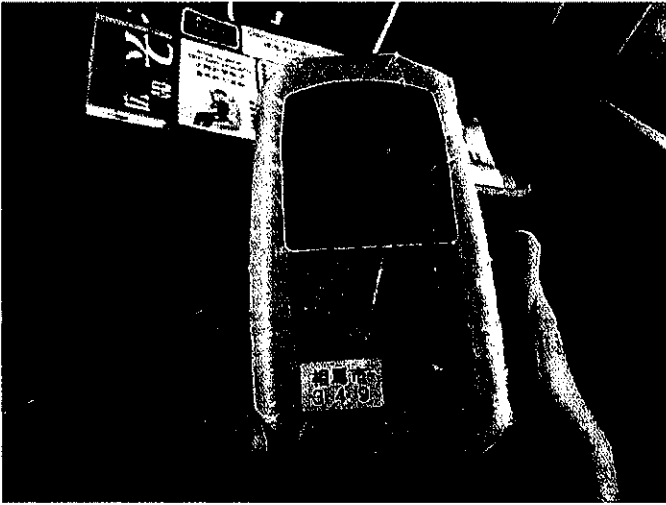
出荷停止と移送できない家畜



やせ細る黒毛和牛



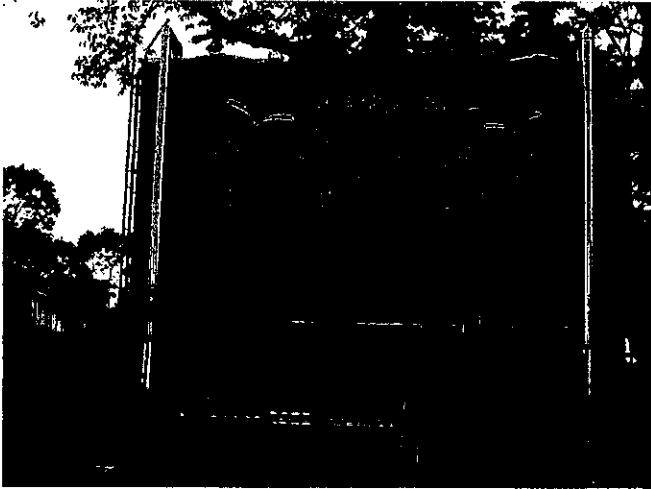
この牧場での放射線量



移動中の放射線量



家屋の解体工事。廃材はこの地区からの搬出禁止。



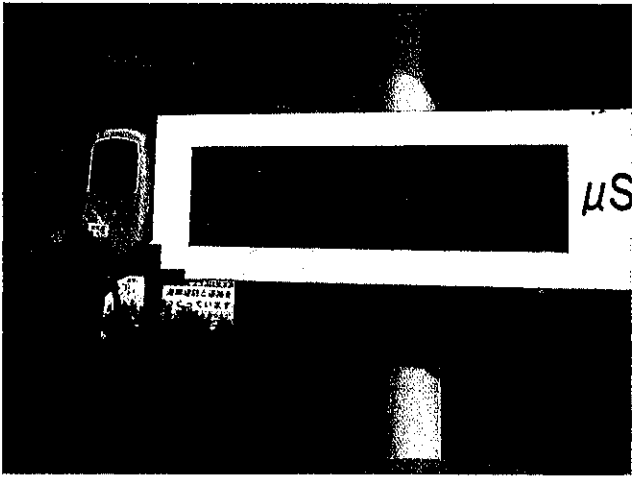
浪江町市街地の仮設商店街



仮設商店街



仮設商店街



放射線測定器の精度チェック、概ね良好



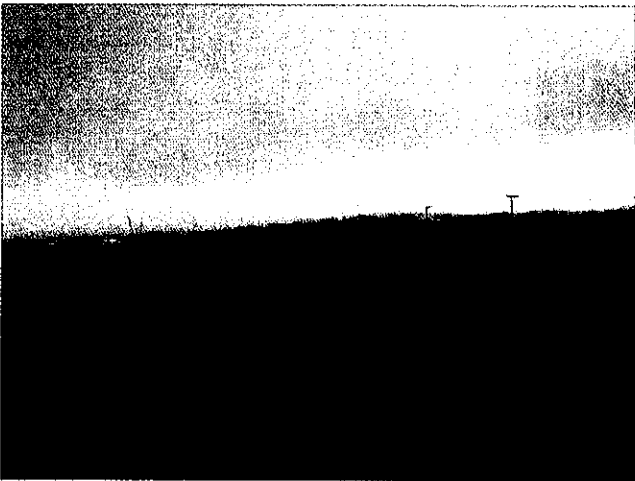
津波でなぎ倒された海岸付近の墓地



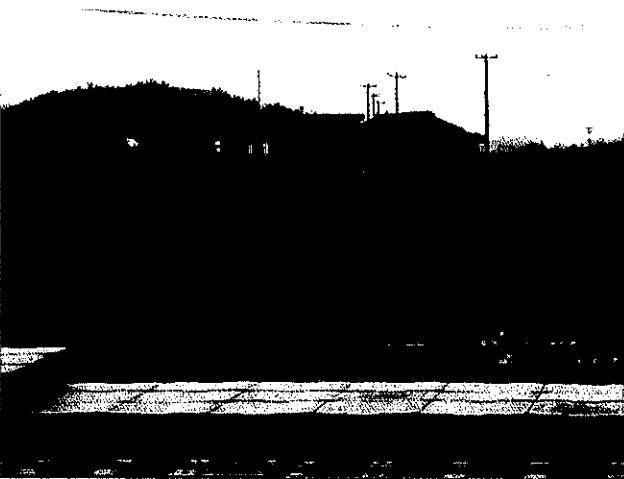
復興パネルを見ながら説明を聞く



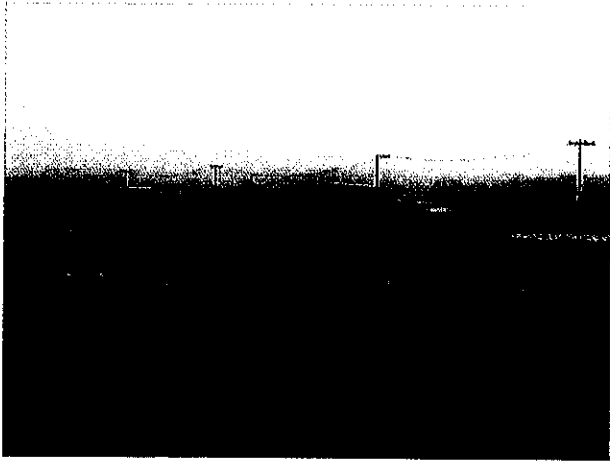
海岸線に防潮堤を建設中



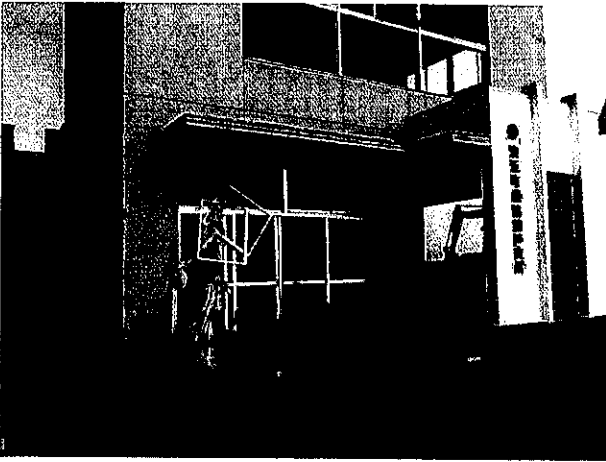
海岸線に防潮堤を建設中



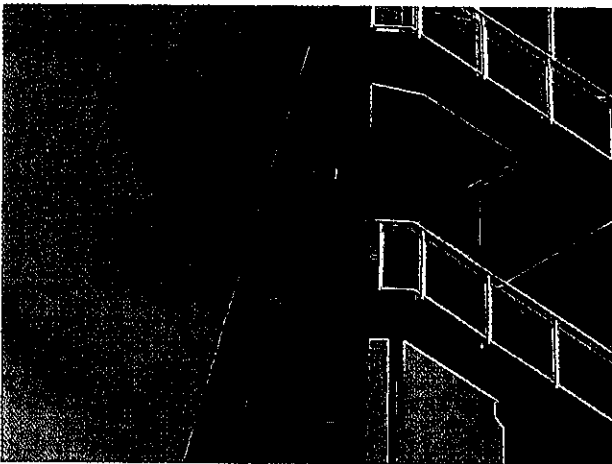
海岸線にあった建物の残骸



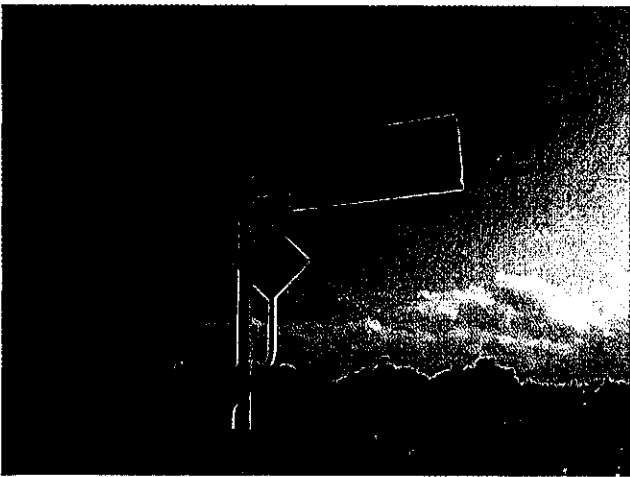
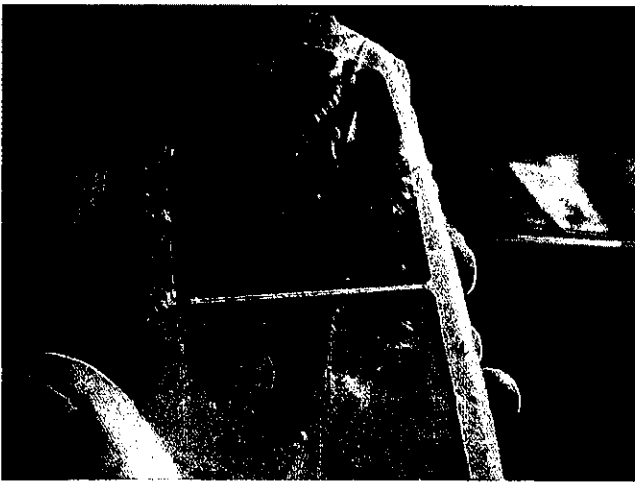
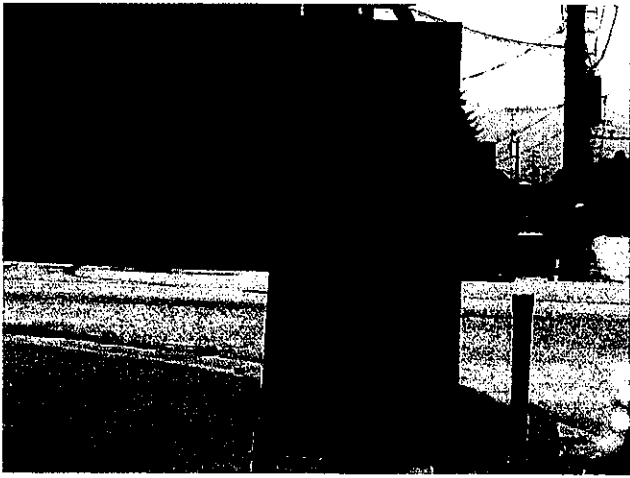
特に J A の支所と請戸小学校がみえる。



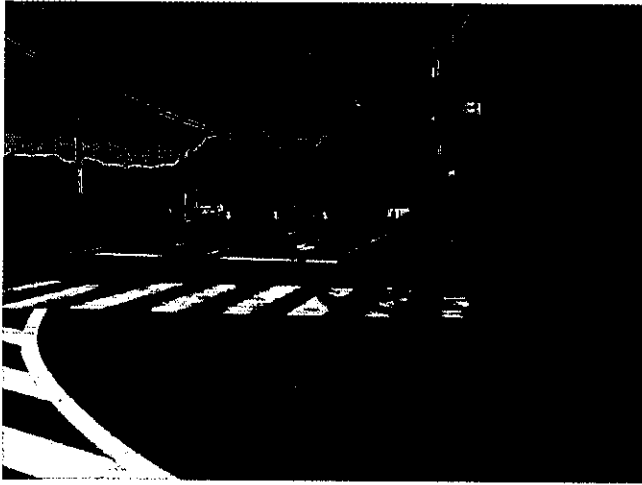
J A 支所の残骸



請戸小学校の 2 階と 3 階の間にあつた時計高さ 10 m くらいか。3 時 38 分で止まっている。津波によるものか。



この国道の入口から原発までの距離1.5km。



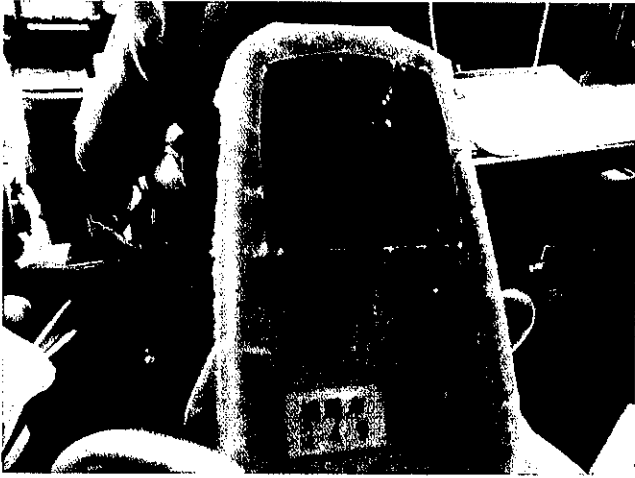
原発入口のバリケード



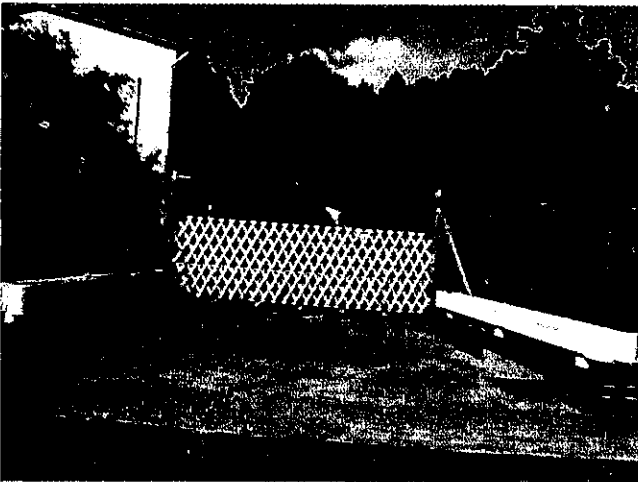
ここの地点での放射線量



国道から大野町市街に入る。



大野町内、本日の最大放射線量4.229マイクロシーベルト。
出発地点の実に61倍の線量であった。



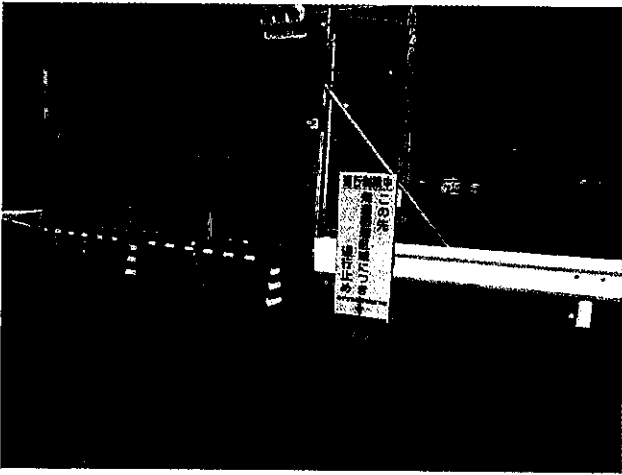
帰還困難区域の建物入口には全てバリケードを敷設。



福島の名所 富岡町の夜の森地区。写真道路右側は帰還困難区域。左は帰還できる区域。



写真道路左側が帰還困難区域。





帰還困難区域からは、汚染地区のため物の持ち出しはできない。カーテンを張ったままの住宅。



帰還困難区域の新しい集合住宅。もったいない。



ツアー終了後の記念撮影。

- テーマ2 遠野市防災計画における道の駅の防災拠点事業について
(広域防災拠点としての道の駅「遠野風の丘」)
- と き 平成29年8月1日(火) 10:30~12:00
- ところ 岩手県遠野市
- 担当者 遠野市役所 議会事務局次長 佐藤 邦昭 氏
産業振興部商工観光課商工労働係長 菅原 康 氏
一般社団法人 遠野ふるさと公社 遠野風の丘 支配人 佐々木 教彦
- 内 容
- 1 東日本大震災時には、自衛隊・救急隊の支援拠点として機能を発揮。これを受けて、岩手県広域防災拠点配置計画の広域防災拠点に位置づけられ、ベースキャンプ、備蓄等の高度な防災機能を分担することとなった。
 - 2 震災後、①緊急貯水タンクの設置(12トﾝ)
②緊急サイネージ(緊急時衛星電話通信で情報のやりとりができる。通常時は広告等の情報を表示。)
③非常用電源(自家発電機 軽油仕様、連続72時間)
 - 3 道の駅「遠野風の丘」の機能充実整備計画
抜粋：防災機能の充実
現状： 遠野市地域防災計画や岩手県広域広域防災拠点配置計画で「防災拠点」として位置付けられているが、防災機能が十分に整備されていない。
方針：・道路利用者等の一時避難に対応できる駐車場の整備
・道路利用者等の一時避難、支援部隊の会議、炊き出し、物資保管、災害時の情報発信に対応できる(仮称)防災館の新設
整備案：駐車柵数の創設、駐車場通路の拡幅(5m→6m)、
駐車区画線の二重線化
事業スケジュール
H28：調査費
H29：駐車場造成実施設計、建築基本・実施設計、
H30：駐車場造成工事、浄化槽、受電設備工事
H31：(仮称)防災館新築工事

北海道北広島市議会 市民クラブ行政視察

日時：平成 29 年 8 月 1 日（火）

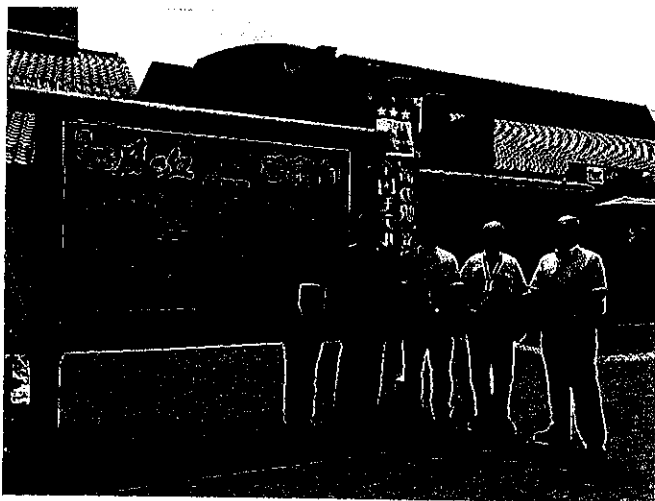
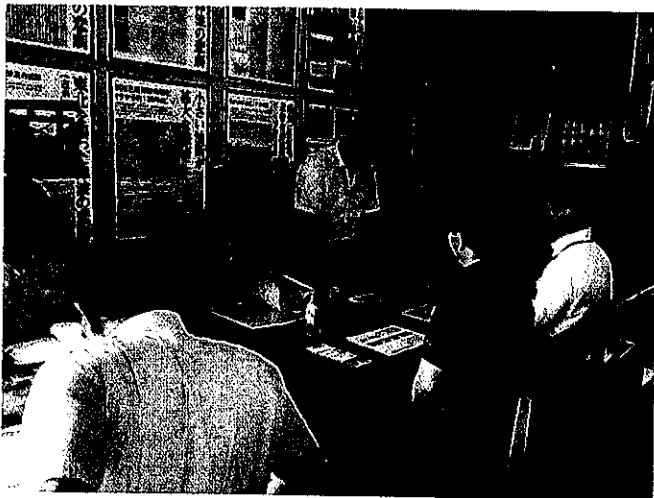
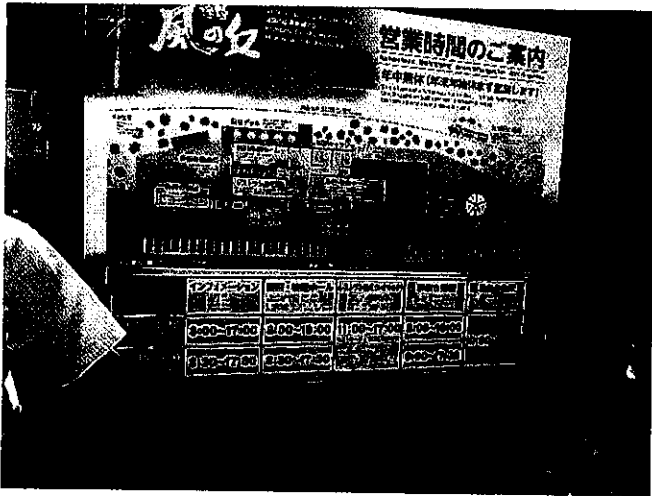
午前 10 時半から 12 時

場所：道の駅「遠野風の丘」

次 第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 出席者紹介
4. 研 修 広域防災拠点としての道の駅「遠野風の丘」
 - 1) 遠野風の丘の歩み
 - 2) 東日本大震災時に果たした役割
 - 3) 備えていたこと、蓄えていたもの
 - 4) モデル道の駅として評価された点
 - 5) 道の駅機能充実整備計画
 - 6) これからの遠野風の丘
5. 閉 会

H29.8.1 遠野市 道の駅 遠野風の丘 視察



テーマ3 ペット同行避難と受け入れ体勢等について（震災の経験からの対策）

と き 平成29年8月2日（水） 10:30～12:00

ところ 宮城県仙台市 宮城県獣医師会館

担当者 宮城県獣医師会 常務理事 野地 和高

若干のプロフィール

獣医師、元宮城県職員、沿岸部の保健所において食品関係・環境関係の業務に従事
県の動物愛護センターにも勤務。

震災時は、県の動物愛護対策の最前線にいた。

- 内 容
- 1 平成23年3月11日東日本大震災が発生した。宮城県の死者数10,384人、行方不明者1,337人、住宅・建物被害237,037戸で復興に向けて懸命に努力が続いている。
 - 2 宮城県内で飼育されていた乳牛212頭、肉用牛364頭、豚2,887頭、馬88頭、ブロイラー707,297頭、採卵鶏785,230羽、ミツバチ405群、犬約10,000頭、猫もほぼ同数犠牲になったと推定されている。
 - 3 宮城県獣医師会は、平成19年3月に宮城県と取り交わした「災害時における愛護動物の救護に関する協定」に基づき、緊急災害時動物救護本部を設置し、9カ所の現地救護センターにおいて救護活動を実施した。
 - 4 「緊急災害時動物救護対応の現状」別紙により、説明を受けた。
 - ① 災害当時は明確な体勢づくりはできていなかった。県の防災計画にもペットの同行・同伴避難はなかった。そこで、H23年3月から1年ぐらいかけて動物対策について検討された。H25年3月にP2のとおり「避難所における愛護動物の対策」が防災計画に盛り込まれた。
 - ② P2～4のとおり「愛護動物の収容対策」がある。
県の獣医師会が関わりH19年3月にP6にある「災害時における愛護動物の救援活動に関する協定書」を宮城県と交わした。
 - ③ P8に「緊急災害時愛護動物救護要項」をつくり、P10に災害発生時の対応概略図があるが、実際にはスムーズに対応できなかった。
 - ④ P11のフローチャートにある被災動物保護センターは緊急災害時の被災動物を扱う部署としている。支援本部は動物愛護センターに置いた。
仙台市内の動物については市の獣医師会と連携して対策を行った。
県の場合は保健所毎に引き取り、愛護センターで保護した。ここでは犬・猫70頭は里親へ出した。里親が見つかるまで1年間は保護した。
 - ⑤ 地震発生後の対応では、動物対応がうまくとれなかった。人間が優先となった。獣医師

会が避難所に向いても動物避難はけんもほろろに断られた。動物愛護センターで保護飼育するボランティアスタッフをなかなか見つけられなかった。

ボランティアの考え方として、いろんな視点での思いがあり、進めていく段階で注意する必要があった。

- ⑥ P11の緊急災害時動物ボランティア認定事業は、今後の災害時における、県獣医師会が行う動物救護への迅速かつ的確な対応を支援する体制の強化を図ることを目的に平成27年度から事業を始めた。
 - ・平常時からボランティアを確保する。
 - ・獣医師のもとで救援活動を補助する。
 - ・2年間で25名を認定したが、市町村との連携がまだ確立していないため連携強化が課題となっている。
- ⑦ P12の緊急災害時動物救護コーディネーター育成事業は愛護動物の救護活動を行う際に県獣医師会と各関係機関との連絡調整や情報伝達・情報収集などを担う指導的役割を果たす者を育成する事業として、平成27年度から年2回の講習会を開催している。H29.7.27開催の研修会では、環境省のガイドライン策定メンバーが講師となって開催した時の話として、動物をきちんと扱わないと繁殖してしまい人に害を与えることになるため、環境問題として考える必要があること。動物の感染症のこともあり、人の健康に害を与えることなどの対応を考える必要がある。ことなどが話された。
- ⑧ 避難所から仮設住宅に移ってから、ペットを放置して退去する人が出てきた。これらに対応することも行政の考え方を整理する必要がある。

<考 察>

ペット社会となっている現代社会において、愛護動物は家族同然との考えが広がっている。災害時の避難や被災時の対応について、避難場所は事前に動物の同行が可能か確認する。飼い主が動物と一緒に避難する。普段からの心構えとして、迷子札の装着やしつけを行う。ペット同伴の避難訓練体験や動物との野外キャンプの経験を積む。ペットフードなど動物用防災グッズの備蓄など有事に備えたりリスク管理を行うことが求められている。

H29.8.2 震災におけるペット同行避難・被災動物対策～宮城県獣医師会

